



千葉の海辺新聞コンクール

■執筆・紙面構成 仲島 誠人 船橋市立船橋小学校4年



小さな生きものがたくさん暮らす三番瀬

三番瀬は、浦安市から習志野市にかけて1800ヘクタールに及ぶ巨大な干潟（あざせ）で、自然豊かな場所です。藻の仲間（ケイ藻）をコツメガニが食べ、そのカニを食べるため鳥が飛来し、また、大きな魚が入ってきつい止め、小さな生きものにとって楽園です。

三番瀬の生きものの数は鳥類89種、動植物プランクトン302種、ゴカイなど底生生物155種、魚類101種、合計647種の生物が確認されています。かつて、三番瀬の魚を築川家康さんに献上していました

編集後記

船橋市立船橋小学校 4年



仲島誠人 さとし

広大な干潟の二番瀬

昔から漁業盛ん、家康に献上も

さう、そつです。戦後の高度経済成長の中で埋め立てられたところもありますが、現在でも漁業は盛んにおこなわれ、栄養豊かな浅瀬ではスズキやカレイなどの稚魚が育ち、成長した魚たちは、巻き網漁や底引き網漁で数多く水揚げされています。その他貝漁やノリの養殖も船橋の漁業の特色のひとつになっています。

1800ヘクタールあると聞いた時はものすごくびっくりしました。他に灯明台が県の文化財に指定されていると聞いた時はすごいと思いました。こうやってみんなにも新聞で知つてほしいですし、新聞は面白いのです。なんにも読んでほしくないです。



海と日本プロジェクト

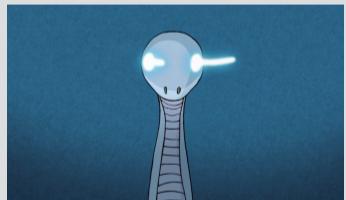
さまざまなかたちで日本人の暮らしを支え、ときに心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海で進行している環境の悪化などの現状を、子供たちをはじめ全国の人たちが「自分ごと」としてとらえ、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、日本財団、総合海洋政策本部、国土交通省の旗振りのもと、オールジャパンで推進している

1895(明治28)年まで官営の灯台で、その後は民間の灯台となり、第二次世界大戦頃まで使われたと言われています。今は県の文化財に指定されています。現在は埋め立てにより海が見えませんが、昔は安全な漁を見守っていました。

船橋大神宮は1900年ほど前に創建されたと伝えられています。灯明台の構造は3階建てで、1、2階は和風、3階は西洋式灯台のデザインを取り入れた西洋折衷のつくりになっています。また、2016(平成28)年4月1日付けで、地域の景観上特に重要な建造物である「景観重要建造物」に意富比神社(船橋大神宮)の灯明台が指定されました。

漁師が建てた灯明台

第一次大戦まで利用



「雪どけ塚の白ヘ
ビ」のワンシーン

雪どけ塚の白ヘビ
昔、夏見城を囲む
あった。松の木の根
さと、やさしく気品

を続けた…。

なって船の航行を助けたと
いうお話をうけました。当時は天台宗のお寺でした。しかし、その後も幕末まで続いた五石の御朱印状を受領していました。明治期には戊辰戦争の戦火により本堂も焼失しましたが、辻に書院が焼失しましたが、辻に守政芳が現在の長福寺の境内に夏見城を築城し、天台宗の僧侶、空山和尚が招かれ、再興されたとされています。現在、長福寺は禅宗の曹洞宗に属し、本尊の聖観世音菩薩像は船橋市で五石の御朱印状を受領されています。江戸時代には、三代将軍徳川家光から觀音堂領とし、その後も幕末まで続いた五石の御朱印状を受領されています。平安時代、円融天皇の時代（969年～984年）に創建されたと伝えられています。